

# とがし 武士団 富樫氏の成り立ち

林氏と同じく藤原利仁ふじわらのとしひとを祖先とする富樫氏とがししは、7代目にあたる家国いえくにが、富樫山地沿いとがしごうにあった富樫郷とがしごう（現在の野々市市と金沢市の一部）を本拠地こうへいとして、康平六年（1063）頃とがしのすけに「富樫介」を名乗ったことがはじまりとされています。

源平合戦においては、林一族と同じく、富樫一族も木曾きそ義仲よしなかに従って平家軍と戦ったことが『平家物語』などに記されています。

鎌倉時代初めかまくらの承久三年じょうきゅう（1221）、後鳥羽上皇ご と ばが鎌倉幕府しっけんほうの執権北条義時よしときに対して起こした争乱じょうきゅう（承久の乱）で、林氏本家は上皇方につきました。上皇方は敗れ、林氏本家も衰退し、代わって富樫氏が加賀の有力武士となりました。富樫一族は、室町時代には野々市しゅごしよに守護所を構え、加賀の守護を代々務めました。



富樫家国公像（本町・文化会館フォルテ）